

「JENESYS2.0」

2015 年度中国青年メディア関係者代表団第 2 陣

訪問日程 平成 27 年 10 月 25 日（日）～11 月 1 日（日）

1 プログラム概要

中国国務院新聞弁公室が派遣した 2015 年度中国青年メディア関係者代表団第 2 陣計 84 名が、10 月 25 日から 11 月 1 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：孟祥林（モウ・ショウリン）
中国共産党中央委員会宣伝部 文芸局 副局長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は東京をはじめ、島根、静岡、富山を訪問し、分団ごとのテーマである「医療・福祉（第 1 分団）」「和食（第 2 分団）」「ものづくり（第 3 分団）」を中心に、関連企業や施設の視察を行うとともに、日本のメディアへの訪問・交流や、街頭での自由取材、テーマに関するブリーフ・視察を行いました。また、地方都市や歴史的建造物などの見学、温泉体験など、さまざまなプログラムを通じて包括的な対日理解を深めました。

2 日程

10 月 25 日（日）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

10 月 26 日（月）

第 1 分団：皇居二重橋見学、国会議事堂視察、(株)フジテレビジョン訪問・交流
第 2 分団：皇居二重橋見学、農林水産省による講義、(一社)共同通信社訪問・交流
第 3 分団：皇居二重橋見学、国会議事堂視察、(株)毎日新聞社訪問・交流
共通：歓迎会

10 月 27 日（火）

第 1 分団：浅草寺見学、聖路加国際病院視察
第 2 分団：東京都中央卸売市場築地市場視察、国会議事堂視察、浅草寺見学、
TEPIA 先端技術館見学
第 3 分団：(株)清水硝子視察、TEPIA 先端技術館見学、浅草寺見学

10 月 28 日（水）

第 1 分団：島根県へ移動、島根県庁による講義、(福)みずうみ 特別養護老人ホーム すまいる苑
視察、和風温泉旅館での日本文化体験
第 2 分団：静岡県へ移動、自由取材(静岡市中央商店街)、和風温泉旅館での日本文化体験
第 3 分団：富山県へ移動、富山城見学、富山県庁による講義、和風温泉旅館での日本文化体験

10 月 29 日（木）

第 1 分団：出雲大社見学、中村ブレイス(株)視察、石見銀山資料館見学
第 2 分団：静岡平喜酒造(株)視察、(株)静岡新聞社・静岡放送(株)訪問・交流、駿府博物館見学
第 3 分団：(株)富山村田製作所視察、五箇山和紙の里(和紙すき体験)、相倉合掌造集落見学

10 月 30 日（金）

第 1 分団：松江城見学、自由取材(松江京店商店街)、(株)山陰中央新報社訪問・交流、
島根県立美術館見学
第 2 分団：(協)焼津水産加工センター視察、久能山東照宮見学、三保の松原見学
第 3 分団：自由取材(総曲輪通り商店街、中央通り商店街)、NHK 富山放送局訪問・交流、
富山市ガラス美術館見学

10月31日（土）

共通：東京都へ移動、商業施設視察、東京タワー見学、歓送報告会

11月1日（日）

第1分団、第3分団：羽田空港から帰国

第2分団：東京臨海広域防災公園見学、成田山新勝寺見学、成田空港から帰国

3 写真

＜共通＞	
	
10月26日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長の挨拶（東京都）	10月26日 歓迎会 孟祥林団長の挨拶（東京都）
10月26日 歓迎会 日中友好会館会長江田五月 致辞（東京都）	10月26日 歓迎会 代表团团长孟祥林致辞（東京都）
	
10月31日 歓送報告会 訪日感想披露（東京都）	10月31日 歓送報告会 自由取材報告（東京都）
10月31日 歓送報告会 団員发表访日感想（東京都）	10月31日 歓送報告会 団員介绍自由采访成果（東京都）

＜第1分団＞



10月26日 国会議事堂視察(東京都)

10月26日 参观国会议事堂(東京都)



10月26日 (株)フジテレビジョン訪問・交流
(東京都)

10月26日 访问株式会社富士电视台并进行交流
(東京都)



10月27日 浅草寺見学(東京都)

10月27日 参观浅草寺(東京都)



10月27日 聖路加国際病院視察(東京都)

10月27日 访问圣路加国际医院(東京都)



10月28日 島根県庁による講義(島根県)

10月28日 听取岛根县政府的讲座(岛根县)



10月28日 (福)みずうみ 特別養護老人ホーム
すまいる苑視察(島根県)

10月28日 访问社会福祉法人湖 特别养护老人院
微笑苑(島根县)



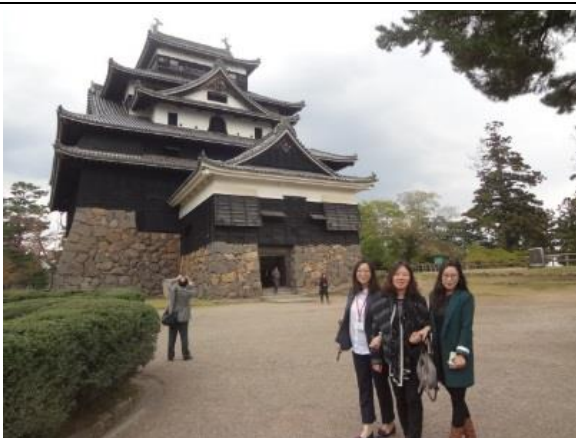
10 月 29 日 出雲大社見学(島根県)

10 月 29 日 参观出云大社（島根县）



10 月 29 日 中村ブレイス(株)視察(島根県)

10 月 29 日 访问中村 BRACE 株式会社
（島根县）



10 月 30 日 松江城見学(島根県)

10 月 30 日 参观松江城（島根县）



10 月 30 日 松江京店商店街で自由取材(島根県)

10 月 30 日 在松江京店商店街自由采访（島根县）



10 月 30 日 (株)山陰中央新報社訪問・交流
(島根県)

10 月 30 日 访问株式会社山阴中央新报社并进行
交流（島根县）

<第2分団>



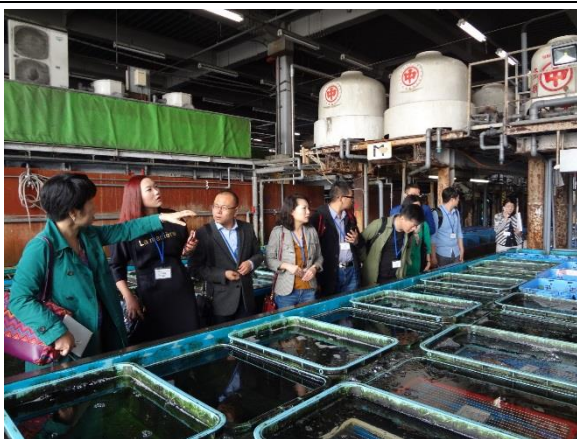
10月26日 農林水産省による講義(東京都)

10月26日 听取农林水产省的讲座(東京都)



10月26日 (一社)共同通信社訪問・交流(東京都)

10月26日 访问一般社团法人共同通信社并进行交流(東京都)



10月27日 東京都中央卸売市場築地市場視察(東京都)

10月27日 访问东京都中央批发市场筑地市场(東京都)



10月27日 TEPIA 先端技術館見学(東京都)

10月27日 参观先端技术馆 TEPIA(東京都)



10月28日 旅館の女将が和食のおもてなしについてレクチャー(静岡県)

10月28日 听取日式旅馆女主人关于日式饮食文化的介绍(静岡県)



10月29日 静岡平喜酒造(株)視察(静岡県)

10月29日 访问静岡平喜酒造株式会社(静岡県)

	
10 月 29 日 (株) 静岡新聞社・静岡放送(株) 訪問・交流	10 月 30 日 (協) 焼津水産加工センター視察(静岡県)
10 月 29 日 访问株式会社静岡新闻社・静岡电视台株式会社并进行交流(静岡県)	10 月 30 日 访问协同组合烧津水产加工中心(静岡県)
	
10 月 30 日 久能山東照宮見学(静岡県)	10 月 30 日 三保の松原見学(静岡県)
10 月 30 日 参观久能山东照宫(静岡県)	10 月 30 日 参观三保松原(静岡県)
	
11 月 1 日 東京臨海広域防災公園見学(東京都)	11 月 1 日 成田山新勝寺見学(千葉県)
11 月 1 日 参观东京临海广域防灾公园(東京都)	11 月 1 日 参观成田山新胜寺(千葉県)

<第3分団>



10月26日 皇居二重橋見学(東京都)

10月26日 参观皇居二重桥(东京都)



10月26日 (株)毎日新聞社訪問・交流(東京都)

10月26日 访问株式会社毎日新闻社并进行交流(东京都)



10月27日 (株)清水硝子視察(東京都)

10月27日 访问株式会社清水硝子(东京都)



10月28日 富山城見学(富山県)

10月28日 参观富山城(富山县)



10月28日 富山県庁による講義(富山県)

10月28日 听取富山县政府の讲座(富山县)



10月29日 (株)富山村田製作所視察(富山県)

10月29日 访问株式会社富山村田制作所(富山县)

	
10月29日 五箇山和紙の里(和紙すき体験) (富山県)	10月29日 相倉合掌造集落見学(富山県)
10月29日 在五箇山和紙之乡体验和纸制作 (富山県)	10月29日 参观相仓合掌村(富山県)
	
10月30日 総曲輪通り商店街、中央通り商店街で 自由取材(富山県)	10月30日 NHK 富山放送局訪問・交流(富山県)
10月30日 在总曲轮路商店街、中央路商店街 自由采访(富山県)	10月30日 访问NHK 富山电视台并进行交流 (富山県)

4 参加者の感想(抜粋)

【第1分団】

○ 訪日のチャンスが与えられたことに感謝すると共に、活動を通して日本に対する新しい認識が深まった。最も印象深いのは日本人の仕事に対する真剣さ、熱心さだ。

聖路加国際病院では、医師の病人に対する細やかな準備に感銘を受けた。「特別養護老人ホームすまいる苑」では居住者の歯の状態に合わせ固形物から糊状までの食物を用意していた。老人が液状の食べ物を飲んでむせないよう、粘度を調整しており、高齢者の尊厳に対する配慮が感じられた。中村ブレイス株式会社は、手作業で本物そっくりの義肢の作製に懸命だった。中村社長は古い建築物や伝統文化の工芸品の収集にも励んでおり、非常に感動した。こうした中に日本人の真剣さ、細やかさ、熱心さが現れていた。

帰国後は周囲の同僚、友人、家族に今回日本で見聞したこと、感じたことを伝えたい。そして自身のメディアを積極的に使い、中国の人々に日本を紹介していきたい。

○ 8日間の訪日研修で、ありのままの日本を体験し、日本の人々、文化、歴史、社会、科学技術などの魅力を味わった。今回は「医療・福祉」のテーマに沿って訪問し、島根県の「特別養護老人ホームすまいる苑」に深い印象を持った。両国の文化背景は異なるが、高齢化社会の到来は両国共通の深刻な社会問題である。日本は中国より早期に少子高齢化社会に突入したので、高齢者問題の対応では参考にできる経験を多く有している。今回の訪問では関連する内容に更なる理解を深めた。老人ホームを直接訪れたことで、それを体感できた。同じ種類の食物でも、異なる咀嚼能力により5種類の形状で料理を供する点には、日本人の物事に対する細やかさとプロ意識を感じ、我々が学ぶべきだと思い、忘れ難い経験を得た。

今回の訪日を通して周囲の人々に次のことを伝えていきたい。

- ① 特に昨今見られるソフトパワー面での日本のスピーディーな発展。
- ② 政治に関して、一般の日本人は中国人ほど関心を寄せていない。
- ③ 日本社会の礼儀と秩序は引き続き研究していくべきだ。
- ④ 多くの純朴な民間の風俗習慣は中国と類似しており、両国国民は交流を促進する文化的基礎を有していることが分かった。また、中国人は自国の文化に対してもっと自信を持つべきだ。
- ⑤ 一般の日本人の英語能力は中国人に及ばないように感じた。

○ 今回の訪日を通して、日本や日本人に対する印象がより直接的になり、以前より全面的に理解できるようになった。

(株)フジテレビジョンと(株)山陰中央新報社を訪問し、日本のニュースメディアの優位性と特徴を理解した。特に従来メディアとニューメディアの融合に関して、両社は有益な試みと模索を行っていた。中でもフジテレビジョンは動画ニュースをオンラインで配信し、スマートフォンやパソコンユーザーの取り込みを行っていた。山陰中央新報社は従来メディアの優位性を十分に発揮させ、ニュースの記録性や専門性に重きを置いていた。新聞の信頼性と影響力を確かなものにすると共に、オンライン配信を通して、更に多くの読者の獲得に努めていた。

○ 日本の老人は高齢になっても生き甲斐と楽しみを持ち、労わられていた。初めて訪れた日本で、多くの高齢者が非常に良好な状態で生活しているのに驚いた。こうした背景には完璧な制度、先進的なルール、そして人に優しい設計があった。聖路加国際病院などの医療機関では予防に重きを置き、科学的に定期的な健康診断を実施していた。島根県をはじめ日本の各地方自治体は高齢者問題を非常に重視し、制度の整備、創設、人間性への配慮に取り組んでいた。博物館や美術館で高齢者は豊かな精神的文化活動を営むことができ、更に人生を謳歌し、自身の能力を最大限発揮していた。

また、日本の伝統文化を大切に保護し、美を究極まで追求する姿勢が印象深い。皇居二重橋、浅草、出雲大社、石見銀山、松江城など文化や古跡を非常に丁寧に保護している。展示施設パンフレットもとても細かく記載されていた。特に島根県には遺跡が多く、古木が聳え、美しい場所に満ちている。こんな素晴らしい都市なのに外国旅客の訪問はまだ少ないとのことで、幾度も訪れる価値のある桃源郷だと思った。松江での自由取材では、日本酒店の経営者と話した。10年ほど前、ビールが若者に人気だったが、昨今は政府のアピールなども功を奏し、伝統的な日本酒へ回帰しているそうで、若い日本酒愛飲家が増加しているそうだ。伝統文化の流行は世界にも伝播するだろうことから、文化の継承力の影響力がいかに大きいかを思い知った。

そして日本の発展と「日本の力」は密接な関係がある。大田市の中村ブレイス(株)では、社長が400人の小さい地域に根付き、国際レベルの中小企業を作り、障害者に福音をもたらしていることを知った。企業の発展により多くの若者を地方に回帰させ、地方の復興にも貢献していた。社長は17億円を投じて民家を修復し、美しい文化エリアを作り出し、その安寧さは正に桃源郷だ。そこで頂いたパン、流れる音楽、天真爛漫な子供たち、全てが私の美しい人生の思い出となった。

【第2分団】

○ 日本の従来メディアは中国と同様にニューメディアの挑戦に晒されている。しかし日本では確固たる理念と実践が守られており、是非参考としたい。

日本でも新聞業界の業績は下降しているが、その速度は緩やかだ。日本のメディア界の関係者は新聞が依然として強力な媒体であり、その優位性を極限まで大きくできると考えている。小学生から新聞を読む習慣を養い、数百万世帯から一千万世帯まで発行部数をカバーしている。知的財産権の厳格な保護システム、ニュースリソースに対する確固たる管理により新聞は生き続け、日本では一千万部近い発行部数を保っている新聞社もある。

ニューメディアの挑戦を受けて、従来の新聞は更に揺らぐことのない自信を再認識するべきだ。その自信を実践の隅々にまで行き渡らせることが非常に重要だと考える。

- ① メディア関係者が仕事を敬い、熱心に働く姿が印象深い。静岡放送や静岡新聞社との交流を通し、一つのスタジオを娯楽番組とニュース番組が共有し、12人のスタッフが6人1組となり、毎日交代で担当していることを知った。中国国内における多くの省レベルの衛星放送とほぼ同じ仕事量だが、日本ではすべてが生放送というのに驚いた。精神的に非常に緊張する生放送を、たった6人で毎日45分間も担当するとは、その難易度は推して知るべしだ。記者、編集スタッフ、アナウンサーの仕事に対する情熱と、高難度の仕事を厭わずにやり続ける意志の力に心から敬服する。
- ② 農林水産省の荒井課長補佐に、和食をユネスコ無形文化遺産として申請した時のことを質問した。登録に際して、和食は一般の国民生活や社会の発展変化に多方面でさまざまな影響を与えていること、その味だけでなく作り方なども特別に要求があったと回答下さった。中国料理も申請の計画があるので、和食の申請経験から中国や世界の国々は多くの啓発を得られるだろう。
- ③ 築地市場でも、静岡市中央商店街でも、ブルーカラーの人々、行商人、ショップ店員など人々が非常に真面目に働いていた。何世代にもわたり一つの仕事を営んでいる人もいた。中国でも十数年、二十数年前の労働者は同じだった。しかし最近、一つの仕事に専心できない雰囲気は若者を中心に蔓延している。日本の若者も同じかは分からないが、一つの仕事に一生を捧げた一世代前の中国人も、日本で出会った真面目に働く人々も、その仕事に向き合う真摯な精神は、若者が見習うところだと感じた。
- ④ 中国は発展途上国だが、日本は先進国であり、両国間には一定の差異が存在する。しかし中国と日本はそれぞれ秀でた分野もある。日本の新幹線は世界的に有名だが、最近の中国の高速鉄道の発展にも目を見張るものがあり、既に世界市場に打ち出している。「中国観光客が日本で炊飯器を買い漁る」のは事実だが、これは完全な理性ある人の行動ではない。中国人はもっと理性的に買い物をするべきで、両国の科学技術や工業品製造の相違点や差異を見極めるべきである。人間は非理性的な大衆の行動に先導され易いため、「日本製」が「中国製」より優れていると考えがちだが、それは客観的とは言えないのだ。

○ 日本人は残忍で、態度や性格が狭あいだで冷淡だと思っていた。しかし、実際は善良、勤勉、自信に満ち、一般的教養も高かった。

共同通信社、静岡放送の訪問を通し、日本の通信社、新聞社、テレビ局の運営方式や発展の特徴を学んだ。交流と意見交換により日本のメディア界に対する認識を深めた。農林水産省、築地市場、平喜酒造、水産加工センターなどを視察し、和食を代表とする食文化に理解を深めた。収穫、加工、卸販売、管理から輸出入に至る多方面で、健康的、質の高い、オーガニックを取り入れた食文化に触れ、また、遺伝子組替食品など非健康的食品の摂取に対する規制管理を心から称賛する。

○ 今回の訪問を通し、日本や日本国民の生産活動、生活様式に対して更なる理解を深めた。主な感想を以下にまとめる。

- ① 活発な経済、貿易の繁栄が印象深い。東京、静岡の至る所で近代文明の息遣いを感じ、世界各国からの旅行者の姿を多々目にした。これらは開放的で許容性の高さの現れだと思った。
- ② 伝統文化を完璧に保存し、継続して発展させていた。歴史的に日本は中国文化の影響を多大に受けており、漢字も一例に挙げられる。文字は文明を伝承、発展させていくための手段の一つである。日本が豊富な文明を包括した漢字に変化を加え、自国の文化として育んできたことは他国が学ぶべき点である。
- ③ 国民の文化レベルが高いことも印象的だ。8日間を随行してくれたスタッフも、ホテルのスタッフも全員が「他人を慮る」気持ちで、常に他者の身になっていた。人としての教養の高さに感銘を受け、多くを学びたいと感じた。
- ④ 文明に学び、小さなことから始めたい。日本や国民を理解するのみならず、常に向上心を持ち続ける重要性を再認識するきっかけとなった旅でもあった。今回の訪日で得た学びを今後の生活、学習や仕事での行動や理念に生かしていく。小さいことから始めてこそ、大きな成果が上がるものだ。

【第3分団】

○ 日本の製造業はハイテク化へのシフトをほぼ完了したと言える。日本にとって大規模生産はすでに誇るべき産業形態ではなく、先端技術や新技術の応用に多くの資源を投入するようになっている。村田製作所を訪問し、そのことを強く感じた。富山県の村田製作所では、毎年、予算の18%を研究開発費に回しているとのことで、中国では想像すらできない。もちろん中国企業の構成や発展状況を鑑みれば単純に比較はできないが、中国では利益の大部分を生産の拡充に回している。村田製作所は規模拡大の概念は更に工場を増設することであり、一工場の資金、技術、人材の問題はすでに解決されているのだ。

また、日本の企業同士の協力体制にも敬服した。部品メーカーの村田製作所は完成品を生産する能力を有するのに、部品サプライヤーに徹しているのも、産業を継続させるための配慮ではないかと思う。また、企業間の良好な協力関係を築きあげられたのは、両者間で取引契約を交わしているからだけではなく、きっとほかにより深い理由があったのだろう。時間の関係で踏み込んだ理解には及ばなかった。

○ 日本のラジオ、NHK 富山、毎日新聞など従来メディアは中国と同様にニューメディアの挑戦とチャンスに直面している。両者をいかに有効的に融合させるか、中日両国のメディアに携わる者にとって協同で探るべき課題である。

工業化、科学技術が発展している日本だが、伝統的な手工芸の継承にも心血を注いでいた。大量生産できるガラス皿なのに、清水硝子のような小さい作業場で数十年の技術を大切に受け継いでいた。単に手工芸へのこだわりではなく、日本文化を守っていくメッセージを感じた。

中国人も日本人も肌色、髪や目の色も同じで、共に深い歴史を有している。「遠くの親戚より近くの他人」と言うように、共に発展し、両国国民の利益に合致することが大切だ。共に学び合い、尊重し合い、進歩していくべきだ。

災害後の報道や災害処理の能力、環境保護意識、ゴミ分類、製品の安全や品質など優れた点を多いに参考にしたいと思う。

○ 文化：五箇山の和紙など豊富な伝統文化が素晴らしかった。一枚の紙が幾つかの工程を経てこれほど美しくなり、精巧な加工が施されて工芸品になるのは素晴らしい。

飲食：滞在中、伝統的な日本料理を頂いた。一回の食事に十数個の小皿を使っているのには驚くと共に、一つ一つの料理の細やかさには脱帽した。

交通：気持ちよく暮らせる町かどうか、基本的な交通インフラ建設は重要な要素だ。ホテル周辺に待機する多くのタクシー、縦横に走る地下鉄や道端の自転車など、人々の生活の利便向上が考慮されていた。

態度：生活や仕事への真剣さには敬服した。特に富山県の村田製作所で案内して下さったスタッフは自分の仕事に対し自信に満ち溢れており、心から羨ましいと感じた。

礼儀：私が特に驚いたのは、礼儀の正しさだ。空港、ホテル、レストラン、街角、ショッピングセンター、コンビニ、至る所で日本人の内心からにじみ出る謙虚、礼儀、作法のすばらしさに心地よく、温かな気持ちになった。中国は礼儀の国といわれるが、日本を手本とする点も多々あると感じた。

○ 自由取材で入った生鮮野菜のスーパーは忘れられない。ほとんど全ての商品には生産者、生産日が印されたラベルが付いており、QRコードで更に詳細な情報を消費者に提供していた。食品安全面での「トレーサビリティ」などは我々に足りないところだと感じた。

日本の清潔な環境、発達した科学技術、環境保護の意識の高さ、国民性、中日両国の文化における共通点、中日友好の草の根に張られた基礎などを今後、伝えていきたい。